

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000034		
法人名	有限会社 ベストライフ		
事業所名	グループホーム ちくし永岡の里		
所在地	〒818-0066 福岡県筑紫野市永岡1489番地1	092-922-3812	
自己評価作成日	平成24年7月27日	評価結果確定日	平成24年09月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念である「福祉・人権・環境・教育・平和は皆平等の精神で地域社会に貢献できる施設をめざします」をモットーに職員全員団結して業務にあたっています。入社して間もない職員には慣れた職員が「心こそ大切なれ」の言葉通りご利用者に接していくように指導しています。公園やショッピングセンターが近くにありご利用者の気分転換に職員が同行することもあります。低料金に努め身寄りのないかた等積極的に受け入れる姿勢をもっている。また、地域の訪問野菜販売・ヤクルトの訪問販売を受け入れご利用者にも楽しんで購入していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ちくし永岡の里は、大型ショッピングセンターや医療機関、学校、公園に囲まれた利便性の良い住宅街に位置し、小規模多機能ホーム、高齢者専用住宅と併設のグループホームである。利用者と職員が丹精込めた畑では、野菜や果物の収穫で賑わい、ぶどうの成長を心配する利用者の顔が、印象的である。利用しやすい料金設定と、職員の穏やかで優しい介護サービスの提供は、利用者や家族から、「ここを選んで良かった」という評価に結び付いている。かかりつけ医と提携医療機関の連携で、健康管理を確立し、毎日の体操、廊下での歩行訓練や散歩等、生活リハビリを取り入れた取り組みは、利用者の身体機能を維持するだけではなく、要介護4から1の改善事例があり、利用者の自信回復に繋げている。また、地域で社会貢献のための介護相談等の取り組みも検討中である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年08月27日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設の理念「福祉・人権・環境・教育・平和は皆平等の精神で地域社会に貢献する介護施設を目指します」を毎日申し送りにて唱和し職員一同意識づけをしている。</p>	<p>ホーム独自の理念を掲げ、「心こそ大切なれ」をモットーに、職員全員が心を一つにし、地域社会で貢献していくグループホームを目指し、利用者一人ひとりに合わせた介護の実践に向けて努力している。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>毎日の散歩の際ご近所の方と挨拶をし花壇の花などを頂いたりしている。地域の資源回収にも協力している。</p>	<p>地域の行事(夏祭り、敬老会、廃品回収)等に参加し、親しくなった近隣住民と散歩時に立ち話す等、日常的な交流が始まっている。また、地域の方からの誘いで、公民館のいきいきサロンに参加する等、交流が広がっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>日常적으로ご相談を頂くのでお話をうかがいながら一緒に手立てを考えている。地域の方にも運営推進会議を通してお話する事もある。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では事業所の概要・ご利用者の状況報告行事・等報告している。また、外部評価の結果についても報告するようにしている。</p>	<p>併設小規模多機能ホームと合同で、利用者、家族、地域の役員、行政職員、包括支援センター職員の参加で2ヶ月毎に開催している。ホームの現状、行事、事故報告に止まらず、参加者から情報提供や、アドバイス等もらい、充実した会議である。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>サービスに関する事前協議を行い、事故に関してもその都度報告している。研修においても研修報告書を提出するようにしている。</p>	<p>分からない事や困難事例等を行政窓口を持ち込み、相談して連携を図っている。また、運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現況を把握してもらっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修を行い職員皆で拘束しないケアに努めている。</p>	<p>身体拘束廃止マニュアルを整備し、内部研修会を行い、拘束が利用者にもたらす影響を理解し、職員間で見守り、声をかけ合いながら、身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修にて職員一同虐待防止に努めている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い勉強会を行なった。ご家族にも相談を受けた際にはお話をしている。	現在制度利用者が2名いて、内部研修で職員は制度を理解し、全員で共有している。利用者や家族が制度を必要とする時は、活用のための説明と、関係機関に繋ぐ体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に、自宅や事業所内で説明を行い締結している。また、不明な点についてはその都度説明を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を準備し、ご家族には説明を行っている。職員にもご家族より申し出があった際にはきちんと聞き入れるよう周知している。	家族面会や電話、ホーム便りを通じて、家族と話し合い、意見や要望を聞き取っている。出された意見は検討し、ホーム運営に反映させている。また、意見箱や苦情受付窓口を掲示し、自由に意見が言える環境である。	家族の悩み、心配事を家族同士の交流の中から汲み取る事を目指して、食事を兼ねた家族交流会等を開催する事が望まれる。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの意見や個別に相談があった際にはその都度話をきき相談にのっている。	小規模と合同で毎月定期的に関催し、情報の共有を図っている。毎月の会議、カンファレンス、モニタリング、毎朝のミーティング等、職員間で、意見を出し合い、ホーム運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に勤務の希望を聞き入れている。各自、不満なく働けるよう配慮している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別・資格・経験は不問で採用にあたっている。また、地域のかたは積極的に採用するようにしている。研修に関しても勤務調整をして参加できるよう配慮している。	職員採用は、年齢、性別、資格、経験等の制限はなく、やる気と元気と協調性を優先し採用している。職員の休憩室、ロッカーを整え、休憩時間を確保し、職員がリフレッシュしながら安心して仕事が出来体制を確保している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内研修を行いご利用者様の人権を守り、尊重できるよう周知している。	人権の研修を実施し、利用者の人権を尊重するという事はどういう事なのか、人生の先輩である利用者に対する言葉遣いや敬う気持ちについて具体的に話し合っている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部勉強会を行いました、外部研修に参加できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度代表者会議を開き各事業所の報告及び問題点等を話し合っている。会議の内容はミーティングで報告している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に十分な聞き取りを行いご利用者に今何が必要かを見極めながら関係作りに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に聞き取りが出来ている時とそうでないときがあるがご家族の身になりできるかぎりの相談にのっているようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意向をおききしながら必要としている支援を見極め、他の選択肢の支援にも努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としての自負はもちつつ、ご利用者の能力や生活層に応じ日常生活における作業などできる限りお互いに協力しあう関係であるようにしている。		
21		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を行い、面会が難しいご家族は電話や手紙等で報告行い行事にも参加していただくようにしている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会には快く対応している。電話等もご本人の希望があればその都度対応し関係維持に努めている。	職員は、利用者の行きたい所、食べたい物、会いたい人等を把握し、普段行けない場所等も含め、家族と相談し実現出来るように努力している。また、友人、知人が「近くを通りかかったから」と言って立ち寄られる事もある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる限り皆様がコミュニケーションがとれるようリビングにて計算問題や折り紙・ゲーム等を取り入れている。時折、言い争いになるケースもあるが、その都度職員で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご相談があった場合はお話しをききアドバイスをさせていただいている。一度縁があった方には最後までおつきあいをさせていただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話のなかでご本人の要望を聞き出し実現できるように努めている。困難な場合はミーティングを開き解決するようにしている。	職員は、常に利用者に寄り添い、希望や意向を聞き出し、実現に向けて取り組んでいる。意向表出が困難な利用者には、過去の記録や、アセスメントを見直し、家族と相談しながら、利用者の意向を把握するよう努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談や電話連絡で本人やご家族の話を伺い今後の生活環境を見させていただいている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言葉や訴え・生活暦等面談にて家族にも確認し、入居後は職員との会話の中で情報を得ている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	相談者や主治医の専門的な意見をききながら必要があればケアの方向性の提案をさせて頂きご本人・ご家族の同意を得て計画を作成している。	職員は家族と懇談し、要望を聞き取り、関係者と検討し、定期的に介護計画の見直しを図っている。また、利用者の状態に変化があった場合には、家族と常に連絡を取りながら、介護計画をその都度見直している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはありのままを記入し、ご本人の言動も飾らないようにする。また、記録の漏れをなくすよう常日頃より指導している。カンファレンスやミーティングで情報交換を行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院・訪問診療・訪問歯科等紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な資源回収に協力し地域行事にもできる限り参加している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはご家族より希望の病院を聞き対応している。また、訪問診療・訪問歯科等の説明も行いご利用者・ご家族のご要望に応じている	利用者や家族の希望を聴き、かかりつけ医の受診支援をしている。また、提携医による月に2回の往診と、週2回の訪問看護、看護職員や介護職員による見守りで、利用者の健康管理は充実している。訪問歯科による定期的な往診も確立されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員・看護職員・管理者等の連携を密にして情報交換を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や医療機関と情報交換を行いご本人のADL低下や認知症の進行状態を協議しながら早期に退院できるよう進めている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	勉強会にて従業員の介護技術を身に付け看取りのケアが出来るようにしていきたい。	重度化に向けた指針を作成し、契約時にホームの方針を説明し、急変時対応希望書をもらっている。利用者の状況変化に合わせ、家族と連絡を密に取りながら、関係者で話し合い、方針を共有している。また、職員の介護力の強化を図り、重度化の支援に向けて備えている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生の講習を行い、緊急マニュアルを準備し職員が把握できるようにしている。また、看護師との連携を常にとっている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い職員には周知している。また、地域の方にも訓練に入っていたいただき連携をとっている。	避難訓練マニュアルを整備し、消防署の協力と指導を得て、年2回防災訓練を実施し、非常時に備えている。地域住民の協力を得て、避難訓練を実施している。また、居室のドアに、利用者の状態を表す、赤、黄、青のシールを貼り、避難誘導がスムーズにいこう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の際には特に気を配りプライバシーを保っている。「心こそ大切なれ」を常に頭において言動にもきをつけるように指導している。	職員は、「心こそ大切なれ」を常に心に留めながら、利用者に対して優しい言葉かけやさりげない誘導を心がけ、利用者のプライドを傷つけない介護サービスに取り組んでいる。また、「嬉しい、楽しい、幸せ、ありがとう」を言ってもらえる介護を目指している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者の思いを傾聴し決定できるよう努力している。決定が難しい場合には協議のうえ実現できるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて起床・就寝して頂いている。日中もご本人のペースに合わせて過ごしていただいている。		
41		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の気に入った服装をしていただき常にブラッシングをしヘアスタイルを整えている。また月に一度訪問理髪に来ていただきご本人の好むようにカットしていただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、食器拭き等職員と一緒にやっている。食事もご利用者・職員全員そろって食べれるようにしている。	食事が楽しみなものになるよう、料理の下拵え、食器拭き等、利用者と職員と一緒にやっている。利用者と職員が、同じテーブルで同じ料理を、楽しい会話の中で食べる光景は、ほのぼのとして、笑いが一杯の楽しい食事風景である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・水分量は記録にて管理している。水分量が少ない方には出きる限りとっていただくよう声かけ行なっている。また、その方にあったキザミ食も提供している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声かけを行なっている。訪問歯科にきていただき歯の検診も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ・オムツ使用の方には出きる限り、時間をみてトイレ誘導を行っている。排泄の記録も毎日チェックシートに記入している。	全員トイレでの排泄の誘導を試みている。職員は、利用者の排泄パターンを把握し、さりげない早めの誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を実践している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をもとに便秘がちな方には水分補給・運動をうながし、排便困難な方には医師にも相談している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴していただいている。入浴日に体調不良の方にはご希望にて別の日に入浴していただいている。	1日おきの入浴であるが、利用者の状態や、気分を優先し、自由に変更している。また、入浴を拒否する利用者には、職員が交代で声をかけたり、環境を変えるなどして、楽しい入浴になるように支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人・お一人に合った時間に休んでいただいている。起床時間もその方に合わせておきていただき朝食の時間がずれる事もある。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほとんどのご利用者が服薬管理が出来ない為施設にて管理し職員が飲み込みまできちんと見守りしている。薬の副作用・目的をきちんと理解できてない職員が多いが、全員の職員が人目で分かるよう処方箋を提示している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせて家事手伝い・花の水やり・をやっていたりレクリエーションや散歩等も実施している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により、散歩や買い物に出かけている。また、季節に合わせ桜・コスモス等の花見にも出かけている。	近くに花の綺麗な公園が2か所ある為、利用者と職員は、気候の良い日は、毎日散歩に出かけたり、買い物、ドライブ、花見、外食等に家族の協力を得ながら実施している。また、敷地内の畑、花壇の手入れ等、戸外活動も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはお金の管理は事務所で「お預かり金」として管理している。ご本人の希望があれば適当な金額をお渡しして買い物にでかけている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば実施している。</p>		
54	2.2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合った張り紙・生花等を準備して季節感を味わっていただいている。</p>	<p>廊下やリビングには、利用者と職員の手作りのぬり絵やちぎり絵が飾られ、季節の花飾りと合わせ、利用者に季節を感じてもらう工夫をしている。また、バリアフリーを建物全体に設置し、安心して、穏やかに暮らせる共用空間である。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室内には出きる限りご自宅で使っていた物を置くようにしている。ご家族が面会に来られた際には記念写真をとり居室に掲示するようにしている。</p>		
56	2.3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物・本等を持ってきていただいている。また、ご家族にお願いしてかわいがっていたペットの写真等も持ってきていただいている。</p>	<p>居室は、利用者が安心して過ごせるように、家族の協力を得て、家具や仏壇、馴染みの小物等を持ち込んでもらい、居心地良く暮らせる居室になっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下や階段には手すりを設置し物を置かないようにしている。また、定期的に点検を行い安全に移動できるよう配慮している。</p>		